

三河港港湾計画 意見交換会（第1回） 主な意見（令和3年2月22日開催）

項目	検討委員会・幹事会	環境アドバイザー会議
<p>海域環境の現状</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北西の季節風が、愛知県のアサリ漁業の基幹である六条潟の稚貝の発生にすごく大切な要素として機能している。 (秋に産まれたアサリ稚貝が、冬場でも餌料や水温等の生育環境が整った豊川の河口域に北西の季節風によって保持され、春の出水・擾乱により干潟全域に広がっている。)</li> <li>・栄養不足が起こっていて、海苔やアサリ、コウナゴ、イワシなど、伊勢湾全体の生物生産性が下がってきている。</li> <li>・栄養不足が起こっている理由は、陸域からの栄養負荷が下がってきたことと、陸域から流れ込む栄養分が、港の防波堤や埋立地によって港の中に偏在し、周辺の海域に上手く広がらないことの2つ。</li> <li>・伊勢湾・三河湾の中でも栄養不足になっている海域は、港の外で大きな川の流入が無いような場所。</li> </ul>
<p>港湾計画における「豊かな海の保全・再生」の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発面と環境面の共存は難しく、調整が必要な部分と、環境改善を港湾計画側で協調していける部分がある。</li> <li>・環境面との調整が必要な部分については、防波堤、沖合という言葉も含めた埋立、ふ頭間を結ぶ臨港道路の具体的な位置、RORO 船という新しい物流、蒲郡におけるクルーズ船対応の航路拡幅、洋上風力発電や貯木場の活用など。</li> <li>・汐川干潟や六条潟は、環境改善を港湾計画の中でも協調していけるところ。</li> <li>・具体的な数値、あるいは場所が決まっていない、これからの検討段階なので、検討委員会と環境アドバイザー会議双方から検討、留意点を出しておくことが重要。</li> <li>・環境の保全が開発をしていく中でも必要で、港が活性化するためには環境がないと、人流・交流としても成り立たない。</li> <li>・綺麗な港、海が無いと、観光資源としての開発、発展も見込めないと、関係の方々も認識されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六条潟という場があれば良いのでは無く、その場の機能を維持する海況、水質、餌料環境等の海の状態が担保されることが必要。</li> <li>・六条潟を保全する区域と位置付けたその精神を踏まえ、整備の方向性のあり方を検討して欲しい。</li> <li>・ある程度浅場を確保しつつ、あまり深くせずに機能を活性化するようなものができたらいい。</li> <li>・コンテナ船の大型化対応が三河港で本当に必要なのか、今一度検討して欲しい。</li> <li>・冬場の静穏度は、波の問題もあるが、風の問題が大きいので、埋立や、防波堤で改善する訳ではない。</li> <li>・バースの向きを変えるなど対応出来そうなことを十分考えていただきたい。静穏度確保のために、大きな埋立をみたい論理で進まなくてもいい。</li> </ul>

項目	検討委員会・幹事会	環境アドバイザー会議
構造物等による影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>防波堤や神野ふ頭の前面に埋立地を作ることは、六条潟の生物生産機能を阻害する可能性がある。</li> <li>港を深くするのは環境面ではあまりよくないことが多い。</li> <li>中に栄養塩を閉じ込める様な港の構造は、栄養不足になっている伊勢湾・三河湾では、非常に大きく影響が出るのではないか。</li> </ul>
環境を保全・創出する区域（汐川干潟など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>汐川干潟の保全は、価値感として、人的要素とか、背後圏との関係とか、何を残して創造的に活用するかを明らかにすることが必要。</li> <li>汐川干潟にこういった機能があるのかということと、地域への密着や、環境保全等への動きなど、地域の気持ちがないと、反対に荒廃してしまうのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何のために保全するのかという目的が重要。</li> <li>汐川干潟は、野鳥の生息場・飛来地ということだけではなく、三河湾の中で残された貴重な湾奥の海域で、生物生息や、水質浄化機能の維持にとって大事な場。</li> <li>神野ふ頭の背後の水路を水が通るようなことをして、港の中の栄養塩を上手く供給できるようにならないか。</li> </ul>
貯木場の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>活性化に向かって有効活用したいということなので、環境とのバランスは絶対に考えないといけない。</li> <li>環境面でも開発面でも有効利用する上で、どのように折り合いをつけていくのかが、今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未利用になっている貯木場は、生物生息にとって酸素条件や餌料環境等の様々な環境がかなり整っていて、そういう場所を干潟・浅場の再生という三河湾再生の課題に利用していったらどうなのか。</li> <li>明海の貯木場は、避難場所などの防災面の利用も考えられる。</li> </ul>
ふ頭間ネットワークの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回、主要な議論となるが、必ずしも現在の港湾計画通りということでも無い。</li> <li>強度、経済面だけではなく、環境への配慮もかなり考えていくことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備の際には、経済的な側面だけではなく、河川水や海の流れに十分配慮した架橋方式ということに、留意して検討して欲しい。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>街と港の距離感を縮めるような工夫・仕掛けがあったら良い。</li> <li>港、水際線が遠いので海の防災意識が市民にとって、ちょっと距離感がある。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業側の時間軸と環境のベースにある時間軸をどう合わせていくのかを、計画の中で留意していくことになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総論として伊勢湾、三河湾をこれからどうしていくのかということと、その一部である港の機能をどうするか、港の環境をどうするかというのは、全く不可分なもので、一体のものだという認識を持つことが必要。</li> <li>三河湾の価値を落とさないような港湾計画が重要。</li> </ul>